

働きたい人みんなが働けるまちを目指して!

はたらくまじな

富士市ユニバーサル就労支援センターが発行する情報誌
vol.26
2024.6.15

新たに認定登録された協力企業の紹介

2024年5月8日現在

認定番号	企業名	業務内容
255	株式会社三光塗装钣金工業	自動車整備及び钣金塗装
256	株式会社鈴和観光	アパホテル富士中央の運営業務
257	影島工業株式会社	プラスチック製品の製造・加工
258	合資会社堀野紙工	紙加工・販売
259	アルムメディカルサポート(株)富士支店	人材派遣業・請負業
260	株式会社石井新聞店	新聞販売業
261	表富士観光株式会社	大富士ゴルフ場の運営管理業務
262	株式会社誠和	総合ビルメンテナンス
263	有限会社パンの家 小麥屋	パン・菓子の製造・販売
264	一般財団法人 富士市勤労者福祉サービスセンター	中小企業の会員に総合的な福利厚生事業を提供

サポーター大募集!!

富士市民の皆様へ
あなたのとらに、「働きたいのに働けない人」いませんか?

地域で、大丈夫だよ! と声を掛けられるのも人だから...
いい制度やサービスがあっても、それをつなぐのは人だから...
お友達に教えてあげてください

サポーター大募集!!

「富士市ユニバーサル就労支援センター」はユニバーサル就労推進に関する中核センターです。

こんな方を求めています!

- 富士市民の方
- 富士市ユニバーサル就労支援センターを知っている方
- 富士市ユニバーサル就労に賛同してくれる方
- 身近に働きたいのに働けない人がいる方

サポーターってなに?

身近に困っている方がいたら、富士市には富士市ユニバーサル就労支援センターがあるよ! とお声がけください!

サポーターは登録制です。2次元コードもしくは裏面の登録申込書からご登録を!

1つでも当てはまったら、サポーター登録を!

大丈夫! 富士市にはユニバーサル就労支援センターがあるよ

サポーターとは?

相談する → 富士市ユニバーサル就労支援センター → 相談する
情報
地域に広める → サポーター → 友達に伝える

富士市ユニバーサル就労支援センターは、全ての市民が生きがいを持ち、社会の一員として働くことができるまちを目指す地域の発展を目指して活動しています。サポーターの皆さまには、ユニバーサル就労を広める活動を依頼いたします。可能な範囲で身近に困っている方がいたら是非「富士市には富士市ユニバーサル就労支援センターがあるよ」とお声がけをお願いいたします。

富士市ユニバーサル就労の推進に関する条例より
市民の役割

富士市ユニバーサル就労サポーター 登録申込書

申込日 年 月 日
氏名
メールアドレス
ご住所
TEL FAX

富士市ユニバーサル就労推進事業認定協力企業

〒416-8558 静岡県富士市本市場432-1 フィランセ東館1階
TEL 0545-62-7520
メール▶ fuji-uw@tokaido-sigma.jp WEBサイト▶ https://f-uw.com

ご登録はこちらより



2024年度版サポーター募集のチラシを発行しました。全ての市民にユニバーサル就労を知ってもらうことを目的としています。身近に困っている方がいたら「富士市には富士市ユニバーサル就労支援センターがあるよ」とお声がけ下さい。

CONTENTS

- サポーター大募集
- 第5回富士市ユニバーサル就労協力企業会開催
- 令和5年度富士市ユニバーサル就労支援センター支援状況

ユニバーサル就労は、企業の皆様の協力なくしては実現しません。日頃のご理解・ご協力に感謝しております。

ユニバーサル就労を推進するために欠かせないのが、雇用や就労体験の場を提供して下さる企業様の協力です。ユニバーサル就労に興味のある企業の皆様、ご連絡お待ちしております。

協力企業名は富士市のWEBサイト city.fuji.shizuoka.jpに掲載されています



「トップページ > くらしと市政 > くらし・手続 > 就職・労働 > ユニバーサル就労 > ユニバーサル就労推進事業認定協力企業」の、「認定協力企業一覧」のPDFデータでご覧いただけます

ご意見・ご提案募集!

富士市ユニバーサル就労広報係は、みなさまのご意見やご提案を募集しています。下記メールアドレスまでご連絡をお待ちしています。

富士市ユニバーサル就労支援センター 広報係
〒416-8558 静岡県富士市本市場432-1 フィランセ東館1階
TEL 0545-62-7520

メール▶ fuji-uw@tokaido-sigma.jp WEBサイト▶ https://f-uw.com

富士市ユニバーサル就労



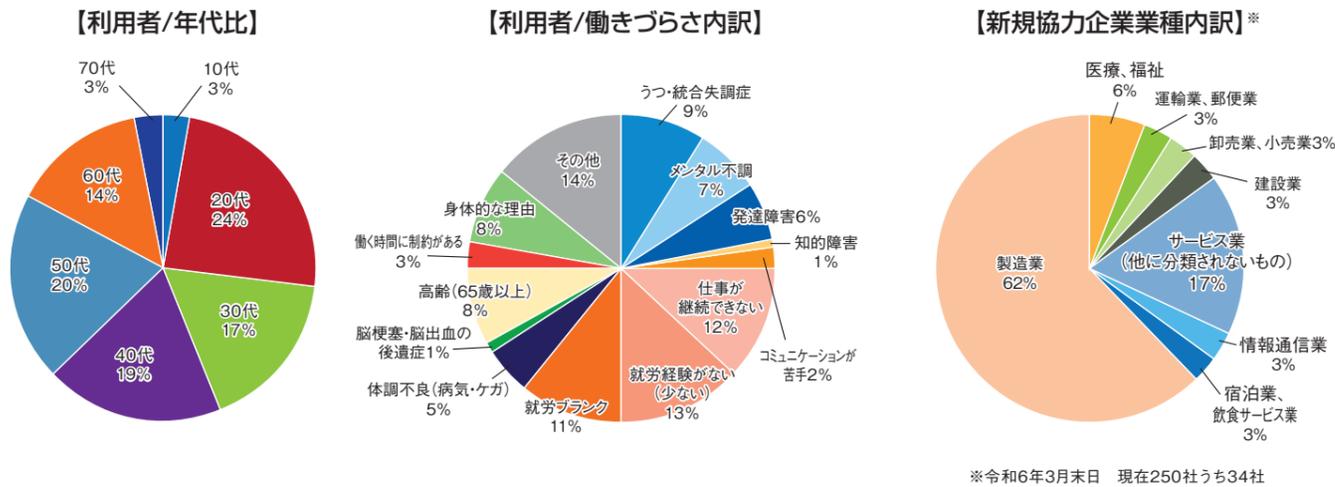
令和5年度富士市ユニバーサル就労支援センター支援状況

令和5年度は147名の利用者が就労を実現しました

富士市ユニバーサル就労支援センターでは、令和5年度は319名の利用者に対して就労に向けた支援を行い、147名の方が就労を実現しました。

利用者の相談状況においては、年代別では20代が全体の24%を占めています。続いて40代と50代が約20%、30代が17%、60代が14%となっており、昨年度と同様に稼働年齢層のご相談が多い結果となりました。

利用者の働きづらさの要因は多岐にわたっており、「うつ・統合失調症」や「メンタル不調」といった精神的不調が全体の16%を占め、その次に「就労経験がない(少ない)」が13%、「仕事が継続できない」が12%、「就労ブランク」が11%と続き、「身体的な理由」と「高齢(65歳以上)」がそれぞれ8%となっています。利用者の働きづらさに寄り添い、きめ細やかな支援が必要不可欠となっています。協力企業として新たに34社の企業にご登録をいただき、令和6年3月末時点で250社となりました。



就労された方の事例紹介

●Aさん 20代 男性

叔母の家で育てられたAさん。叱られることが多かったため、自己肯定感が低く性格はネガティブな傾向がみられました。高校卒業後は製造会社に就職しましたが、人間関係が原因で1年で退職。その後転職するも常に人間関係に悩み、早期退職を繰り返していました。

「どんな仕事だったらやってみたい?」そんな質問から支援はスタートしました。キャリアカウンセリングを通じ、得意なことや好きなことを徹底的に聞き取りました。また、キャリア研修を通じ、自己理解を深めていきました。

支援の途中で「働くのが怖い」と本音を漏らしたこともあります。静岡県が実施している遠隔ロボットOriHimeの就労体験に参加したことで、新しいことにチャレンジしようとする前向きな気持ちが芽生え、趣味の料理を活かした仕事に就こうと決意するに至りました。

職場見学と就労体験を通じて現場の作業を実感でき、自信を持って面接に臨めました。本人が抱えている不安な気持ちを事前に就労先企業に伝えていたため、ご配慮をいただき、今ではとても楽しそうに元気に仕事をしています。

【支援センターを利用しての感想】

親身になって話を聞いてくれました。アドバイスをいただき自信を取り戻すことが出来ました。

6か月間サポートしていただきありがとうございました。

●Bさん 60代 女性

腰と膝に慢性的な痛みを抱えているBさんは、身体に負担なくできる仕事を探していました。

支援開始時には、通院先のリハビリの経過を参考に、無理なくできる動作をご本人とともに確認していきました。そして、複数の協力企業の職場見学・就労体験・通勤カーに参加しながら、どんな働き方が合っているのかを探っていきました。

「就労して健康でありたい」というご自身の強い意向もあり、最後まであきらめずに求職活動を続けた結果、短時間の清掃業務に就労し、最終的には生活を立て直すことができました。

就労後も、企業と相談しながら徐々にできる範囲を拡げ、元気に就労を継続されています。

【支援センターを利用しての感想】

職場見学は、自分ができること、できないことも分かって勉強になりました。

相談員さんの厳しさもあり、時には優しいところもあって良かったと思います。アドバイスがあったからこそ、自信がついて職場復帰ができたと思います。

【Bさんからのメッセージ】

みなさんも仕事に向けて、あきらめないでがんばってください。

第5回富士市ユニバーサル就労協力企業会開催

「事例から学ぶ、多様な人材活用 ～これからの企業に求められる仕組みづくり～」

3月21日(木)、富士市文化会館ロゼシアターの会議室において、第5回富士市ユニバーサル就労協力企業会を開催しました。

令和5年度2回目となる今回の協力企業会は、前回の参加企業からの「事例共有や意見交換の場を設けてほしい」との要望を反映し、グループに分かれ、多様化する人材の受け入れ体制について、企業間の情報共有を行いました。

まず、パイロット事業所である株式会社グリーンテックの大浦所長と、ケンコーマヨネーズ株式会社富士山工場の菅野工場長の講話の中で、富士市ユニバーサル就労支援センターからの受け入れ事例や企業としての仕組みづくり、採用担当者として配慮していることなどについて、これまでの実績をもとに事例を紹介していただきました。

続いて、パイロット事業所を中心に編成して行われたグループワークでは、参加企業15社16名それぞれの視点から、受け入れ体制の整備や事例などについて、活発に意見交換を行いました。

参加した企業からは、「企業としての仕組みづくりが必要だと思った。受け入れ体制を整えられるよう社内でも発信していきたい」「協力企業の方々がさまざまな悩みをかかえているのを知り、解決にむけて意見を交わせた」といった声が寄せられました。参加者の新たな気づきや、社内のユニバーサル就労に対する意識の醸成につながる貴重な企業間交流の時間となりました。



パイロット事業所の事例紹介

株式会社グリーンテック 富士営業所

人材活用の仕組みづくりとして、各リーダーをメンターとして、社員の相談や支援を行う体制を作っています。メンターは会社での人間関係、業務上で発生する悩みなどの相談を受け、サポートしています。



所長 大浦智和 様

また、生活相談員を2名配置し、仕事のみならず日常の悩みも含め、相談にのっています。

受け入れ担当者としては、働きづらさや困っていること等を、面接時にしっかり聞き取り、各リーダーへ直接展開をします。リーダーは定期的に様子を確認し、担当者に報告。内容によっては、後日担当者が直接面談を行います。

以上のような仕組みを作ることで、従業員への定着率の向上とともに、安心して活躍できる職場づくりを目指しています。

【協力企業の皆さまに向けてのメッセージ】

まずは、「やってみる」ことを勧めます。受け入れにしても、仕組みづくりにしても、まずはやってみないと何もわからない。直面して初めて、問題点や課題が浮き彫りになり、対応策を考えることで、前進できます。やろうかやるまいかを考えているあいだは、止まっているということ。まずは思い切ってやってみましょう。失敗から学ぶことはたくさんあると思います。

ケンコーマヨネーズ株式会社 静岡富士山工場

弊社の社系にある「地域貢献」の実践として、2018年にユニバーサル就労の話が持ち上がった際にはすぐに受け入れを応諾し、2023年12月までに雇用者数は15名を数えています。試行錯誤のうえ採用までに職場見学、就労体験2日間、無償通勤カー4日間と全てのステップを経ることをお願いするようにしました。その甲斐もありほとんどの方が定着できるようになりました。

コミュニケーションに不安を感じて対人関係を作るのが苦手な若者Aさんの場合、経験豊かな年配者を指導担当にし、さらに指導期間を少し長めに設定することで働きやすい環境を作りました。

【協力企業の皆さまに向けてのメッセージ】

コミュニケーションに不安を感じている人への配慮の仕方に、これが正解というものはないかもしれませんが、働く人の目線に立って適材適所を心掛けることが肝心ではないでしょうか。



工場長 菅野健司 様

